



第 64 号  
2015 年 11 月 6 日  
LET 九州・沖縄支部事務局発行  
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1-1  
北九州市立大学 長 加奈子研究室内  
TEL 093-695-3249  
E-mail: secretariat@j-LET-ko.org  
編集:植田 正暢・松崎 徹・事務局

## LET 第 44 回（2015 年度）九州・沖縄支部研究大会報告

麻生 雄治（長崎県立大学）

2015 年 6 月 13 日長崎大学文教地区キャンパスにおいて、『授業は英語で』を支える理論とその実践」という大会テーマのもと、LET 第 44 回九州・沖縄支部研究大会が開催されました。文部科学省が高校学習指導要領に「授業は英語で行うことを基本とする」との方針を盛り込み、2013 年 4 月から実施されていることもあり、up to date で中・高・大の教育現場において関心の高いテーマでした。

大会に先立って、長崎大学の奥田阿子先生によるワークショップが行われました。「課外学習を促す反転学習の進め方」というテーマで、昨今注目されている新しい授業形態の一つである反転学習の具体的な取り組みが紹介されました。PC や iPad を活用した動画教材の作成方法、オープン教材の紹介やその使用方法の説明など多くの有益な情報を得ることができました。また、授業外で事前学習として使用するための課題（ビデオ教材）もオリジナルで上手に作成されており、今後さらなる教育効果が期待できると思われます。

大会のメインともいえる講演は、細川博文先生（福岡女学院大学）が流暢な英語で

行われました。演題は“Learning English through Interaction: Grammar, Translation, and Dangerous Things”で、大会テーマにふさわしい内容でした。中学校の教科書分析から始まり、英語で行う授業の Dos（ペア・ワークやグループ・ワークを多用すること、生徒が話すように促すこと、学習者のフィードバックを引き出すこと）や Don'ts（指導者は長く話さず学習者に話させること、長い複雑な文を使わないこと、速く話さないこと）など具体的で分かりやすい内容でした。特に途中で前方の参加者を対象に行った模擬授業は非常に分かりやすく、示唆に富むものであり、あっという間の 70 分間でした。

研究発表・実践報告は 6 件あり、いずれも参加者が多く、会場が盛り上がったと伺いました。（私は 3 件の発表を拝聴しましたが、内容は割愛します。）

シンポジウムは本大会のテーマと同様、『授業は英語で』を支える理論とその実践」ということで、パネリストとして有嶋宏一先生（鹿児島県立甲南高等学校）、柴田邦博先生（佐賀県立武雄高等学校）、濱栗啓吾先生（長崎県立壱岐高等学校）のお三方にご

登壇いただきました。パネリストの方々はそのそれぞれの勤務校で先進的な取り組みをされている各県を代表する先生であり、ご多忙の中にもかかわらず快くパネリストを引き受けてくださいました。それぞれのご発表の中で、英語で行う授業の具体的な内容の紹介、失敗した例、指導の反省と変遷など分かりやすい事例を紹介されました。参加者からは、本当に英語のみによる授業で効果があるのか、また評価（テスト）はどのように行うのか、など活発な質疑応答がなされました。最終的に「全て英語で」というよりも英語と日本語を上手にバランスよく使い分けることも大切なのではないかという意見も出されました。もっと議論が深められると面白い話題ではありましたが、残念ながら時間切れとなってしまいました。本大会は、特に高等学校の先生方にとって

関心の高いテーマであったため、長崎県内外の高等学校の先生方の参加者が多く見られました。

閉会式では、次年度開催校の植田正暢先生のご挨拶があり、盛会のうちに終了しました。

場所を移して、長崎ワシントンホテルでの情報交換会は美酒を片手に大いに盛り上がったことは言うまでもありません。

最後に、本大会が無事成功裏に終了できたのも、大会実行委員長である小笠原真司先生、実行委員である奥田阿子先生、古村由美子先生、それから事務局長の長加奈子先生のご尽力の賜物と深く感謝いたします。来年度は北九州市立大学で開催される予定です。来年度もまた多くの方々にお会いできることを楽しみにしています。

## LET 第 55 回（2015 年度）全国研究大会報告

石 井 和 仁（福岡大学）

LET 第 55 回（2015 年度）全国研究大会は、2015 年 8 月 4 日（火）から 6 日（木）までの 3 日間、「外国語教育の最前線：リサーチと実践の出会い」という大会テーマを掲げ、千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）で開催された。会場は、ライフサイエンスセンタービル全 21 フロアのうち 5 階 6 階 8 階を使用。5 階は、受付・業者展示・ポスターセッション（サイエンスホール／ロビー）、開会式・基調講演・総会・閉会式（ライフホール）、口頭発表 3 室に当てられていた。初め、エレベータの近くに受付がなく、業者展示スペースを通り

抜けた奥に受付が設置されていたことに多少戸惑いを感じたものの、業者展示スペースへの人の流れを考慮した動線作りという点から考えると、あれで正解だったようにも思われる。次に 6 階は口頭発表が 2 室と一部業者展示が 2 室、8 階はセミナーとワークショップがそれぞれ 1 室ずつ設けられていた。

大会初日（8 月 4 日）は、各種委員会・理事会・セミナーとワークショップが開催されたが、2015 年度理事会では 2 年に 1 回実施される次期 LET 会長選挙が行われ、現中部支部理事で前中部支部長の柳善和新会

長（名古屋学院大学）が選出された。中部支部から会長が選出されるのは2回目（1回目は丹羽義信第5代会長（1988年後半～1994年3月））であるが、2006年度から2009年度の木下正義第10代会長（九州・沖縄支部）、2010年度から2015年度の竹内理第11代会長（関西支部）に続き関東支部以外の支部から会長が選出される流れはまだ勢いを失っていないようである。

大会2日目（8月5日）は、開会式・基調講演1・総会・学会賞表彰式ならびに36の研究発表・実践報告と2つの公募シンポジウム・7つのポスターセッション・基調講演2、そして懇親会（千里阪急ホテル）が行われた。大会3日目（8月6日）は、5つの賛助会員デモンストレーション、36の研究発表・実践報告、3つの公募シンポジウム、基調講演3、閉会行事が行われた。

ここで大会参加者数を少し詳しく観ておくことにする。（表1を参照。）

出展賛助会員数は36社。この数は登録賛助会員数から見て大変高い出展率を示して

いると言える。懇親会は、事前登録・当日・招待を合わせて142名参加。セミナー1は77名、セミナー2とワークショップは合わせて72名であった。

今回の支部ごとの参加者数を見て気づいたことは、支部会員数の多さに比例して支部ごとの参加者数が増えることは容易に予測されることであるが、今回は関西支部が182名であるのに対して関東支部がその約半数の95名。中部支部がその約半数の46名。そして九州・沖縄支部がそのまた半数の24名となっていて、大変分かりやすい形で支部ごとの勢いや熱意が表面化したとも見て取れる結果となっている点である。

全体を総括すると、近年、8月初旬は各大学業務との重なりでLETの全国研究大会参加が叶わぬケースも少なくない中、今回の大会は質的・量的に十分成功を収めた大会であったと言えるであろう。

最後に関西支部の実行委員各位と展示出展していただいたスポンサー賛助会員に心より感謝申し上げる次第である。

表1. LET第55回全国大会（8月5日・6日）参加者数

	区分なし	関東	中部	関西	九州・沖縄	賛助	計
事前・懇談会有		22	15	51	7	34	129
事前・懇談会無		57	20	93	11	32	213
事前登録無		16	11	38	6	29	100
当日会員	95						95
計	95	95	46	182	24	95	537

（賛助会員を除いた参加者数：442）

## LET 学会賞（論文賞）受賞のご報告

高波 幸代（東洋大学非常勤講師）

本年度の LET 学会賞（論文賞）を受賞いたしましたことを、ここにご報告させていただきます。このような貴重な賞をいただき大変有難く、また身に余る光栄に存じます。対象論文は LET 第 51 号 (pp. 267-296) に掲載されました、“A Comparison of Task Difficulties Among English Spelling Tests: Focusing on Japanese EFL Learners’ Spelling Knowledge” です。この論文は、2014 年 7 月に筑波大学に提出した博士論文における主要な調査の一部をまとめたものでした。

私の主な研究テーマは、日本人英語学習者におけるスペリング習得についての研究、および診断的評価を目的としたスペリングテストの開発です。スペリング能力はライティング活動の中でもある程度の評価をすることが可能です。しかし、通常、学習者は自分が自信を持って書ける綴りのみを使用してライティングに取り組む傾向があるということが報告されています。このことを考慮すると、ある特定の単語の綴りが書けるかどうかを調査したい場合には、ライティングテストの中では評価が難しいと考えられます。診断的評価を目的としたスペリングテストに関する先行研究では、様々なテスト形式で評価しながら学習者の能力に一貫性が見られるかどうか（あらゆる形式で正しく回答できるかどうか）を調べていますが、これらは全て「ある単語を習得しているのであれば、どのようなテスト形式を与られても正しく回答できるはずである」という仮説に基づいています。

スペリングテストを用いた診断テストの研究は、古くは 1930 年代から行われてきました。研究結果から学習者のパフォーマンスはテスト形式の影響を強く受けることが確認されてきましたが、ここでひとつの重要な問題を指摘せずにはられません。先行研究で用いられたテスト形式は、様々な側面を一気に測定しようとデザインされていたため、文法的な知識を問うものが多く含まれていました。（例：英文の穴埋め、一文ディクテーションなど。）語彙を適切に使用ができるかという点では文法的な知識を測定する必要があるのはもちろんのことですが、調査の対象をスペリング能力における診断テストとするのであれば、より対象を絞ったテストを作成・実施する方が適切といえます。発音を聞いて綴りが正確に書けるかどうか、単語の発音と意味を綴りと対応させて理解できているのだろうか、などの詳細な面を検討する必要があります。このような点からこれまでの先行研究のテストをそのまま使用するだけでは不十分であると感じました。

また、先行研究における課題の種類は、再生課題と再認課題の両方がバラバラに使用されている点にも疑問が生じました。例えば「発音を聞いて綴りを書く」という能力は再生課題において様々な形式で測定されていましたが、「正しい綴りを多肢選択式のテスト形式の中から選ぶ」という能力は一つの再認課題においてのみ測定されていました。綴りを選べる（見分ける）能力の他にも「単語の発音を聞いて正しい意味を

選べるのか」、「単語の綴りを見て、聞こえてくる正しい発音に反応できるのか」というように細かく考えていくと、それぞれの知識の方向に関して再生課題と再認課題を設定し学習者がどこに弱点を抱えているのかを明らかにするべきだと感じました。

LET 第 51 号に投稿した論文では、計 12 種のテスト形式を用いた調査の結果を報告していますが、これら 12 種のテスト形式の中には、6 種の再生課題と 6 種の再認課題が含まれています。基本的な語彙知識を「話し言葉形式 (spoken form)」、「書き言葉形式 (written form)」、「形式と意味 (form and meaning) の理解」という 3 点に絞ると、発音、綴り、意味、という 3 要素が浮かび上がりますので、それぞれを対応させていくと 6 方向の知識が想定されます。この 6 方向の知識にそれぞれ再生課題、再認課題を割り当てた結果、12 種のテストとなりました。これには、L1 から L2 への変換となる産出的な語彙知識、L2 から L1 への変換となる受容的な語彙知識も含まれています。研究を進めるにあたっては、なるべく先行研究や発音のテキストなどを参考にしながらマテリアル作成をしました。

分析結果から、再認課題においては、どのような形式においてもほとんどの学習者が正解を選んでいることが分かりました。つまり、ある単語の「発音」、「綴り」、「意味」を認識できる知識は備わっているといえます。しかし、再生課題においては「意味から綴り」、「発音から綴り」、「意味から発音」という 3 つのテスト形式において能力が著しく欠落していることが示唆されました。いずれも産出的な知識を測定するものです。とりわけ推定語彙サイズが 2,500

語未満の学習者においては、再生課題における不正解が目立ちました。

研究で用いた単語は全て中学校、あるいは高等学校英語教科書に含まれている語であり、大学生にとっては既習語であるため、完全解答できても良いはずでした。全員が完全解答できるレベルのテストを作成するために、頻度の高い語を優先的に調査に含めましたが、既習の高頻度語であっても、正しい綴りを書くことができないという結果となりました。

日本人英語学習者にとっては、スペリングに関する知識はあまり重要視されていないのが現状です。しかし、単語の基本的な形式を理解できていない学習者が、それよりも上位のスキルを身に着けられるかというと、少々疑問が残ります。今後は、信頼性の低かった項目を削除するなどして診断テストとしての精度をあげ、日本人英語学習者の弱点をより簡便な方法で見つけ出せるような方法を検討していきたいと思っております。

この度は、LET 九州・沖縄支部だよりにて、受賞の報告をさせていただく機会を賜り、先生方のお心遣いに変え恐縮しております。まだまだ未熟な面が多々ございますので、より一層気を引き締めて研究に励んで参る所存です。今後ともどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## LET2015 年度理事会報告

LET 九州・沖縄支部副支部長  
竹野 茂 (宮崎公立大学)

2015 年度 LET 全国研究大会初日、2015 年 8 月 4 日 (火) 12 時 30 分より約 5 時間に亘って、千里ライフサイエンスセンター 7 階 701 会議室において理事会が開催された。

理事 30 名中 28 名出席で会議は成立した。

会議は竹内会長の挨拶を皮切りに始まった。慣例通りであれば、次回全国研究大会開催担当支部の関東支部支部長が議長に選出される予定であったが、支部長の湯舟理事が校務で欠席のため、副支部長の神田理事が選出され、了承を得た。審議事項 9 件 (懇談事項から動議により審議事項になった 1 件を含む)、報告事項 6 件、懇談事項 3 件、ネット稟議追認事項 3 件について審議した。今回の大きな審議事項としては、竹内会長の任期満了 (任期 2 年、3 期を上限とする) にともなう次期会長選挙であった。

詳細については以下、項目毎の記述をお読みいただきたい。

### <審議事項>

#### 1) 会長選挙 (本部事務局から)

会長選挙に関する慣例則 (過半数をとった者が選出される。過半数をとるものがでるまで上位 2 名で再選挙) が確認された。その後、投票総数が 28 であることを確認の上、投票が行われた。開票の結果 (柳善和理事の得票 20、見上晃理事の得票 8) を受け、柳理事が次期会長に決まった。なお、柳新会長の任期は、2016 年 4 月 1 日より。

#### 2) 会員ステータスの見直しについて (本部事務局から)

本部から以下の通り 5 点の提案があり、審議の結果、承認された。

##### 1. 仮会員の資格の継続期間を定めること 3 ヶ月までとする

##### 2. 2 年度内に退会申請があった場合

措置を統一化すること

5 月末までに会員から退会申請があった場合 :

当該年度の会費請求は行わない

##### 3. 退会時に会費未入金年度がある会員への対応を統一化すること

以下の通りにする。

##### ① 会員から所属する支部事務局に退会申請がある

(ア) 5 月末までの退会申請の場合 : 当該年度の会費請求を含まず②へ

(イ) 6 月 1 日以降の退会申請の場合 : 当該年度の会費請求を含み②へ

##### ② 支部事務局は、当該会員の会費入金状況を学会 DB で確認する

##### ③ 過年度に会費未入金年度がある場合、その合計金額を当該会員に通知

(ア) 当該会員が過年度の会費の支払いを行った場合、退会とする

(イ) 当該会員が過年度の会費の支払いを拒否した場合、または、通知後、2 ヶ月をすぎても支払わなかった場合、除名とする。なお除名になった会員の氏名は支部運営委員会及び支部長連絡会議で共有する

- ④ 各支部事務局は、退会、または除名した会員情報を、学会 DB を使って更新しその旨外部委託業者に連絡をする
4. 除名となる未入金年度の統一見解を定めること
- 会則第 11 条の「2 年分の会費を滞納したとき」の解釈を「仮会員から正会員となり、その後、連続して 2 カ年度分の会費未納がある場合、2 カ年度目の末日をもって除名とする」とする
5. 再度入会を希望する会員への対応を定めること
- 3) 学会法人化に向けて
- 本部から以下の通り、法人化準備作業としての方針と 2 点の作業項目、2 点の予算面での所作が提案された。審議の結果、承認された。
- 方針提案：法人化に向けて段階的な準備を開始すること
- 作業項目：(ア)複式簿記会計の導入準備、(イ)会員管理制度と会費徴収制度の一元化
- 予算面での所作：(ウ)全国大会予算への補助額を増額する、(エ)法人化に備えて本部会計に積立を行う
- 4) 支部提案事項について
- ・支部研究大会発表要項の原稿等の公開について（関東支部から）
- 関東支部から、会員から所属する学術リポジトリ等への公開申請が支部事務局にあった場合、原則としてこれを許可するという提案があり、審議の結果、了承された。
- 5) 2014 年度本部事業報告について（本部事務局から）

本部から資料の通り 2014 年度に行われた事業について報告され、審議の結果、了承された。なお、8 月 7 日から 10 日の FLEAT VI ビジネス・ミーティングに国際交流委員長が参加したこと、機関誌の発行が遅延していることも併せて報告された。

- 6) 2014 年度本部決算報告（案）について（本部会計から）

報告に先立ち本部事務局長から、会計監査の署名欄にある日付の訂正について、事情の説明と修正に向けての手順が示された。次いで、資料に基づき本部決算が報告され、審議の結果、了承された。

- 7) 2015 年度本部事業計画について（本部事務局から）

資料に基づき報告された。事業計画と機関誌 52 号の発行遅延の齟齬について質疑があり、総会では会員に 4 月の計画立案時と現状の説明をすることに決まった。

- 8) 2015 年度本部予算（案）について（本部会計から）

資料に基づき報告され、了承された。なお、本部事業費について質疑があり、法人化に備えての積立金の項目建てについて確認した。

- 9) その他  
なし

#### < 報告事項 >

- 1) 本部報告

・大学機関別認証評価委員会専門委員の選出について（本部事務局から）

資料に基づき報告された。

・2015 年度各支部選出役員（本部事務局から）

資料に基づき報告された。なお委員所属の記載間違いが3点確認・訂正された。

・各種委員の任期について(本部事務局から)

資料に基づき各種委員の任期が確認された。なお、支部選出理事について別紙資料に基づき、理事の割り当て総数が「2014 年度会費を納めた会員数（2014 年度会計報告書に基づく「個人会員」「学生会員」「団体会員）」に応じて決定されることが確認された。これに従い次期理事数は本部2名、関東9名、中部4名、関西10名、九州・沖縄4名（総計29名）と決まった。

・次期 学会賞選考委員長について（本部事務局から）

資料に基づき報告された。野村和宏（神戸市外国語大学）氏が内定。

・2015 年度 正会員数について（本部事務局から）

資料に基づき報告された。関東 478 名、中部 205 名、関西 556 名、九州・沖縄 139 名、本部(賛助会員)42 団体。合計 1,420 であった。

・2015 年度 賛助会員について（本部事務局から）

資料に基づき報告された。

・学会機関誌 J-Stage 公開への移行について（機関誌事務局から）

別紙資料に基づき、J-Stage への参加決定（8月1日より申込開始）が報告された。

・学会機関誌 第 51 号・第 52 号 発行遅延について（機関誌事務局から）

機関誌 51 号発刊遅延および 52 号の編

集遅れについて、機関誌編集委員長および機関誌編集事務局より、お詫びの表明があった。次いで、別紙資料の通り、機関誌事務局から機関誌 51 号発刊遅延の経緯、および 52 号の編集遅れの経緯の説明があった。

・Newsletter 発行について（本部担当幹事から）

資料に基づき報告された。

・FLEAT VI について（国際交流委員・本部事務局から）

資料に基づき、国際交流委員会と IALLT の協力の経緯、FLEAT VI への LET 会員 3 名派遣決定について報告された。なお、国際交流委員会からは、今後 IALLT との協同事業において事前の環境整備に注意が必要なことが指摘された。

・関連学会との連携について（本部事務局から）

教育関連学会連絡協議会および言語系学会連合との連携について、資料に基づき報告された。なお、実際の活動内容についての質問があった。

・外国語教育関連学会日本語論文書式について（本部事務局から）

資料に基づき報告された。

2) 各種委員会からの報告(各委員長から)

・学会賞選考委員会

資料に基づき、論文賞、教材開発賞、新人奨励賞受賞者と選出過程が報告された。

(1)論文賞：高波幸代（東洋大学非常勤講師）

受賞対象業績：A Comparison of Task Difficulties Among English

Spelling Tests: Focusing on Japanese EFL Learners' Spelling Knowledge (*Language Education & Technology* No.51 掲載論文)

(2)教材賞：田淵龍二（ミント音声教育研究所）

受賞対象業績：Seleaf（セリーフ）映画の場面の会話表現をデータベース化し、検索して該当場面を活用できるようにしたソフト

(3)新人奨励賞：福田純也（名古屋大学大学院国際開発研究科大学院（日本学術振興会特別研究員））

受賞対象業績：コミュニケーションタスクを用いた英語授業は授業スピーキングに対する抵抗感を軽減するか

（『LET 中部支部研究紀要実践報告』26に掲載の実践報告）／その他2点

また、研究者倫理（二重投稿・学位論文の扱い）について、学会賞選考委員会から検討事項が報告された。（別紙資料。）この件については、次回の支部長連絡会で審議を加え、次期本部に申し送りすることが確認された。（方針としては、二重投稿を禁止する旨、徹底することと、未刊行である限り、博士学位論文に基づく論文の投稿を認める。）また、教材開発賞については、営利があってもこれを対象とすることが確認された。

・メルマガ編集委員会

資料に基づき報告された。

・国際交流委員会

資料に基づき報告された。なお、資料には明記されていないが2015年度の活動については、例年通り英語で発信できる情報についてHPを通じて広報する活

動を続けると補足説明があった。

3) 全国研究大会一次・二次発表申込について（関西支部から）

別紙資料に基づき、今年度の関西支部担当全国研究大会で実施された二段階発表募集について報告された。次いで、以下のような意見が交わされ、参加費などの課題と共に、今後検討していくことが確認された。

\* 一次・二次発表申込システムは試験的運用であり、今後も試験運用する可能性はあるが、正式に導入する場合は理事会での議決が必要である。

\* 場合によっては支部の垣根を越えて、全国研究大会の発表を査読する方法の検討も必要であろう。

4) 各支部報告（各支部長から）

資料に基づき、各支部の2014年事業と2015年度事業計画が報告された。なお、各支部の収支書類のフォーマットや日付について統一の方向で検討することも合意された。

5) 2016年度 全国研究大会開催について（関東支部から）

資料に基づき、報告された。正式決定は9月になる予定。

テーマ：「外国語授業改革：これからの時代に向けて（仮）」

会場：早稲田大学早稲田キャンパス(予定)

日程：2016年8月7日(日)～8月9日(火)  
(予定)

6) 2016年度以降の全国大会開催予定について（本部事務局から）

資料に基づき、全国大会の担当支部が確認された。

参考

年度	支部	全国研究大会
2016	関東	第 56 回
2017	中部	第 57 回
2018	関西	第 58 回
2019	関東	第 59 回
2020	九州・沖縄	第 60 回

7) その他

なし。

<懇談事項>

1) 学会の迅速な意志決定方法について  
(本部事務局から)

変化の激しい時代における学会運営にとって年1回の理事会開催は不十分として、本部事務局からより迅速な意思決定方法検討の必要性と複数の方法案(資料で示された)が提示され、懇談が行われた。あわせてメール稟議のあり方(懇談事項4(関東支部)、資料で示された)についても意見交換が行われた。

議論の結果、本件に関してできるだけ早急に対応する必要性が認められたため、以下の審議発議が会長よりなされ、これを支持する意見が理事から出たため、審議事項に切り替えて審議を行った。具体的な発議の内容は以下の通り：

「会長・副会長会議」と仮称される新会議体を設ける。この会議体は、会長、本部事務局長、支部長(副会長)の他、支部から選出された1名ないし2名(現在の理事割当数により決定)の理事ならびに支部事務局長が参加する。会長・副会長会議では必要に応じて議決を行い(議決権は理事職にあるもののみが行使する；議事は事前に理事会MLで周知する)、その結果は同会議終了後に理事

会MLで議事録の形で諮られ、そこで承認されて効力を発することとする。

第1回の会長・副会長会議の開催は、現本部体制の下、1月に予定している支部長連絡会議の代替として行う。同会議の運営内規等については、新本部体制の下、次回の理事会(2016年8月開催)で提案・議論されることとする。

審議ののち、上記の議事に関しては、多数決での議決が行われ、全会一致で承認された。

2) 学会機関誌編集委員会について(機関誌事務局から)

学会機関誌編集委員会で、機関誌の編集・発行に関わる業務をより円滑に進める必要から、同事務局組織の変更および内規の整備の必要性が確認され、会長・副会長会議で新たな提案・議論の予定があることが報告された。

3) 全国研究大会・支部研究大会の発表者の欠席について(関東支部から)

資料に基づき、共同研究発表・実践報告において、発表者の一部が欠席する事態とその対応について、会長・副会長会議で審議することになった。

<ネット稟議追認事項>

1) 日本 e-Learning 協賛申請について  
(本部事務局から)

2) (社)日本音響学会からの技術講習会共催依頼について(本部事務局から)

3) 全国研究大会に関わるシステムの構築について(本部事務局から)

資料に基づき、各ML稟議での承認が追認された。

理事会報告は以上です。

## 2015 年度支部総会報告

LET 九州・沖縄支部長  
島谷 浩 (熊本大学)

2015 年度の支部総会は、6 月 13 日(土)に長崎大学文教地区キャンパスを会場として開催された第 44 回支部研究大会の午後に、次のように開催されました。

会場：長崎大学言語教育センター 1 階  
C-16 教室

時間：14 時 15 分～14 時 35 分

総会の議長には、折田充先生(熊本大学)が選出され、議事は以下のように進行しました。

<議題>

### (1) 2014 年度支部事業報告・支部決算報告について

2014 年度支部事業として、1. 開催行事関連、2. 支部総会・支部評議員会、3. 支部運営委員会、4. 支部研究プロジェクトが、次のように報告され承認されました。

#### 1. 開催行事関連

##### 1) 第 54 回全国研究大会

2014 年 8 月 4 日 (月) ～6 日 (水)

会場：福岡大学

大会テーマ：グローバル人材育成に資する  
これからの外国語教育のあり方

8 月 4 日 ワークショップ 8 件

8 月 5 日 基調講演 1：言語リテラシー教育の再検討—言葉としての英語の学びへ—

佐藤 学先生(学習院大学教授・東京大学名誉教授)

8 月 6 日 基調講演 2：「言語力」育成を通しての複眼的思考・批判的思考の涵養

漆原朗子先生(北九州市立大学副学長)  
全体シンポジウム：グローバル人材育成に  
資するこれからの外国語教育のあり方  
講師：宮原 哲先生(西南学院大学教授)

北 浩一郎先生(㈱ LbE Japan 代表取締役社長)

小野 博先生(福岡大学・昭和大学  
客員教授)

他、研究発表・実践報告 55 件、賛助会員  
プレゼン 13 件、公募シンポジウム 4 件、  
ポスター発表 3 件

### 2) 学術講演会・ワークショップ

2014 年 6 月 14 日(土) 会場：福岡大学

テーマ：iPad の活用可能性について

講師：植田正暢先生 (北九州市立大学)

2015 年 1 月 31 日(土)

会場：北九州学術研究都市

講演 1：脳科学と学習

夏目季代久先生 (九州工業大学大学院)

講演 2：英語学習と脳活動

中野秀子先生 (九州女子大学)

### 2. 支部総会・支部評議員会

2014 年 6 月 14 日(土) 会場：福岡大学

### 3. 支部運営委員会

第 1 回 2014 年 5 月 17 日(土)

西南学院大学

第 2 回 2014 年 12 月 20 日(土)

福岡大学

第 3 回 2015 年 1 月 31 日(土)

北九州学術研究都市

#### 4. 支部研究プロジェクト

2013-14年度 第8回支部研究プロジェクトチーム

テーマ：英語学習者の自律性を高める  
Blended Learning の試行—大規模な  
学習者を対象にした英語再履修クラ  
スの改革—

研究代表者：大津敦史(福岡大学)

2014-15年度 第9回支部研究プロジェクトチーム

テーマ：Modeling student satisfaction  
for English Communication majors

研究代表者：Peter Carter(九州産業大学)

引き続き、2014 年度支部決算報告書が  
報告され承認されました。決算報告書の詳  
細については、別紙資料①をご覧ください。

#### (2) 2015 年度支部事業計画案・予算案につ いて

2015 年度支部事業計画案は、1. 開催行  
事関連、2. 支部総会・支部評議員会、3. 支  
部運営委員会、4. 支部研究プロジェクト、  
5. LET 九州・沖縄支部「支部だより」、6.  
LET 九州・沖縄支部紀要について、次の  
ように提案され承認されました。

#### 1. 開催行事関連

##### 1) 支部研究大会

2015 年 6 月 13 日(土) 会場：長崎大学  
大会テーマ：「授業は英語で」を支える理  
論とその実践

<講演>

題目：Learning English through  
Interaction: Grammar, Translation,  
and Dangerous Things

講演者：細川博文先生(福岡女学院大学)

<ワークショップ>

テーマ：課外授業を促す反転授業の進め方  
講師：奥田阿子先生(長崎大学)

<シンポジウム>

テーマ：「授業は英語で」を支える理論と  
その実践

コーディネーター：

麻生雄治先生(長崎県立大学)

パネリスト：

濱栗啓吾先生(長崎県立壱岐高等学校)

有嶋宏一先生(鹿児島県立甲南高等学校)

柴田邦博先生(佐賀県立武雄高等学校)

#### 2) 学術講演会・ワークショップ

2015 年 12 月 5 日(土)(第 2 回支部運営委  
員会後に開催予定)

#### 2. 支部総会・支部評議員会

2015 年 6 月 13 日(土) 会場：長崎大学

#### 3. 支部運営委員会

第 1 回 2015 年 4 月 11 日(土)

西南学院大学

第 2 回 2015 年 12 月 5 日(土)

西南学院大学

第 3 回 2016 年 2 月 13 日(土)

西南学院大学

#### 4. 支部研究プロジェクト

2014-15年度 第9回支部研究プロジェクト  
チーム

テーマ：Modeling student satisfaction  
for English Communication majors  
研究代表者：Peter Carter(九州産業大学)

2015-16 年度 第 10 回支部研究プロジェ  
クトチーム

テーマ：日本におけるデジタル教科書導入  
の可能性と課題—韓国の事例と比較し

て—

研究代表者：原 隆幸(鹿児島大学)

#### 5. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2015年5月15日 第63号発行

2015年11月1日 第64号発行

#### 6. LET 九州・沖縄支部紀要

2016年3月1日 第16号発行

引き続き、2015年度支部予算案が提案され承認されました。予算案の詳細については、別紙資料②をご覧ください。

<報告>

##### (1) 2015年度の支部役員について

2015年度の支部役員は、別紙資料③のように報告されました。

ここで、2014年末で退任された木下先生と川尻先生について説明させていただきます。2014年度末に、木下 正義先生と川尻 徳先生より支部役員退任を希望する申し出がありました。任期途中でしたが、2014年度LET全国研究大会を本支部が無事開催できたことを区切りにしたいとのご希望でしたので、退任をお認めいたしました。

また、木下先生、川尻先生の残任期間を埋めるため、次の2名の先生を新評議員、運営委員としてお迎えすることになりました。

麻生雄治先生(長崎県立大学)

川浪一也先生(福岡大学附属大濠中学・高等学校)

新委員の選出については、前年度3月中に支部ネット稟議において承認されており、両先生には、すでに前号の「支部だより」に、新運営委員としての挨拶文を書いていただいております。

##### (2) 2016年度支部研究大会について

2016年度支部研究大会の会場校と大会実行委員長が、次のように報告されました。支部研究大会の開催日、大会テーマ等については、支部大会実行委員会において調整後、提案されることになりました。

開催日：2016年6月上旬

会場：北九州市立大学ひびきのキャンパス

大会実行委員長：植田正暢先生(北九州市立大学)

以上、ご報告いたします。

## 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 2014年度決算報告書(案)

2015年3月31日

## 収入の部

項目	予算	決算	内 訳	
前年度繰越金	208,577	208,577		
学会費	732,000	772,500	個人会員 @6,000 ×116件	694,500
			学生会員 @3,000 ×4件	12,000
			団体会員 @6000 ×11件	66,000
			2件(2013), 125件(2014), 1件(2015) 2013年度過徴収1,500円(2014年度分に充当)	
雑収入	141,000	807,890	1. 展示協賛金 0	
			2. 広告掲載料 45,000	支部紀要広告協賛(第14号4社)
			3. 寄付金その他 700,390	全国大会支部預け金返金(700,000円), 利息(390円)
			4. 紀要投稿料 61,000	支部紀要第14号投稿料, 支部紀要第15号投稿料
			5. 学会当日会員資料代 1,500	学術講演会・ワークショップ当日会員資料代(500円×3名)
支部積立金より繰入	150,000	0	支部積立金より繰入	
合 計	1,231,577	1,788,967		

## 支出の部

項目	予算	決算	内 訳	
支部大会開催費	0	0		
人件費	10,000	10,800	事務局アルバイト代	
印刷費	300,000	225,293	支部紀要第14号印刷費 198,720円, 封筒印刷費 17,280円, 各種委員会資料印刷等 9,293円	
通信費	100,000	105,074	送料	
会議費	100,000	88,843	支部運営委員会, 紀要編集委員会, 支部評議員会等の開催に伴う経費	
謝礼費	48,000	48,000	事務局謝礼	
旅費	200,000	114,800	運営委員会, 紀要編集委員会参加補助費として	
事務局費	30,000	14,591	宛名ラベル, 領収書, 封筒, PPC用紙, 文具等	
支部分担金	116,325	116,325	775,500円×15%	
学術講演会・ワークショップ	80,000	65,450	講師謝礼・交通費, 懇親会費(講師分)	
支部研究プロジェクト補助費	130,000	130,000	2014-15年度プロジェクト 代表: Peter Carter (九州産業大学)	
会費徴収委託費	60,000	61,665		
雑費	20,000	6,880	送金手数料	
支部積立金	0	500,363	(2015年3月31日付支部積立金残高: 2,661,494円)	
次年度繰越金	37,252	300,883		
合 計	1,231,577	1,788,967		

以上、報告します。

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長

長 加奈子 

以上、相違ありません。

会計監査 林 子晶 会計監査 土持かおり 

## 資料②「2015年度支部予算案」

## 外国語教育メディア学会 (LET) 九州・沖縄支部 2015年度予算 (案)

2015年4月1日

## 収入の部

項目	予算額 (円)	備考	前年度予算	差額	
前年度繰越金	300,883		208,577	92,306	
学会費	786,000	個人会員 @6,000 ×120件	720,000	732,000	▲ 12,000
		学生会員 @3,000 ×2件	6,000		6,000
		団体会員 @6,000 ×10件	60,000		60,000
雑収入	321,000		141,000	180,000	
		内訳 1. 展示協賛料 200,000	0	200,000	
		2. 広告掲載料 60,000 支部紀要第15号への広告掲載料	60,000	0	
		3. 寄付金その他 1,000 寄付, 利息等	1,000	0	
		4. 紀要投稿料 60,000 支部紀要第15・16号への投稿料	80,000	▲ 20,000	
支部積立金より繰入	200,000	(2015年3月31日付支部積立金残高: 2,661,494円)	150,000	50,000	
<b>合計</b>	<b>1,607,883</b>		<b>1,231,577</b>	<b>376,306</b>	

## 支出の部

項目	予算額	備考	前年度予算	差額
支部大会開催費	425,000	大会開催準備金, 講演者謝金, 会場使用料, アルバイト謝金, 講師旅費等	0	▲ 425,000
人件費	10,000	事務局アルバイト	10,000	0
印刷費	350,000	支部紀要第15号, 第44回支部研究大会プログラム・発表要綱, 封筒等の印刷	300,000	▲ 50,000
通信費	100,000	送料	100,000	0
会議費	100,000	支部運営委員会, 紀要編集委員会, 支部大会実行委員会, 評議員会等の開催に伴う経費	100,000	0
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000	0
旅費	150,000	支部運営委員会, 紀要編集委員会等への参加補助	200,000	50,000
事務局費	20,000	宛名ラベル, 領収書, 文具等	30,000	10,000
学術講演会・ワークショップ	40,000	秋季1回	80,000	40,000
支部分担金	113,175	本部への支払い (0.15 ×754,500)	116,325	3,150
支部研究プロジェクト補助費	130,000	研究代表者: 原隆幸 (鹿児島大学)	130,000	0
会費徴収委託費	84,000	1人600円×140名	60,000	▲ 24,000
雑費	10,000	振り込み手数料等	20,000	10,000
支部積立金	0		0	0
支部運営予備費	27,708		37,252	9,544
<b>合計</b>	<b>1,607,883</b>		<b>1,231,577</b>	<b>▲ 376,306</b>

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 長 加奈子

外国語教育メディア学会 九州・沖縄支部役員

名誉支部長

池浦貞彦 (福岡教育大学名誉教授)

中野秀子 (九州女子大学)

仲山雄二 (荒尾高等学校)

古村由美子 (長崎大学)

支部長

島谷 浩 (熊本大学)

松崎 徹 (筑紫女学園大学)

山内ひさ子 (長崎県立大学非常勤)

米岡ジュリ (熊本学園大学)

副支部長

田口 純 (筑紫女学園大学)

竹野 茂 (宮崎公立大学)

評議員 (50音順) 34名 \*は運営委員を兼ねる

麻生雄治 (長崎県立大学)

荒木瑞夫\* (宮崎大学)

石井和仁\* (福岡大学)

植田正暢\* (北九州市立大学)

大藺修一\* (九州産業大学)

大津敦史\* (福岡大学)

奥田裕司 (福岡大学)

柿元悦子\* (九州産業大学)

柏木哲也 (北九州市立大学)

川北直子 (宮崎県立看護大学)

川浪一也

(福岡大学附属大濠中学・高等学校)

事務局長

長 加奈子 (北九州市立大学)

理事

島谷 浩 (熊本大学)

竹野 茂 (宮崎公立大学)

田口 純 (筑紫女学園大学)

長 加奈子 (北九州市立大学)

坂元真理子 (鹿児島工業高等専門学校)

島谷 浩\* (熊本大学)

田口 純\* (筑紫女学園大学)

武井俊詳\* (西南学院大学)

竹野 茂\* (宮崎公立大学)

田上優子\* (福岡女子大学)

長 加奈子\* (北九州市立大学)

綱 智子 (福岡教育大学非常勤)

東矢光代 (琉球大学)

中島 亨 (福岡教育大学)

中野秀子\* (九州女子大学)

仲山雄二\* (荒尾高等学校)

林 日出男 (熊本学園大学)

樋口晶彦 (鹿児島大学)

古村由美子\* (長崎大学)

松崎 徹\* (筑紫女学園大学)

水野邦太郎 (福岡県立大学)

安浪誠祐 (熊本大学)

山内ひさ子\* (長崎県立大学非常勤)

山本佳代 (宮崎大学)

雪丸尚美 (北九州市立大学)

與古光 宏 (九州産業大学)

米岡ジュリ\* (熊本学園大学)

支部幹事

松崎 徹 (筑紫女学園大学)

会計監査

土持かおり (鹿児島県立短期大学)

林 千晶 (福岡女学院大学)

運営委員 (50音順) 20名

麻生雄治 (長崎県立大学)

荒木瑞夫 (宮崎大学)

石井和仁 (福岡大学)

植田正暢 (北九州市立大学)

大藺修一 (九州産業大学)

大津敦史 (福岡大学)

柿元悦子 (九州産業大学)

川浪一也

(福岡大学附属大濠中学・高等学校)

島谷 浩 (熊本大学)

田口 純 (筑紫女学園大学)

武井俊詳 (西南学院大学)

竹野 茂 (宮崎公立大学)

田上優子 (福岡女子大学)

長 加奈子 (北九州市立大学)

学会誌編集委員

折田 充（熊本大学）  
林 日出男（熊本学園大学）

国際交流委員

荒木瑞夫（宮崎大学）

学会賞選考委員

山内ひさ子（長崎県立大学非常勤）  
東矢光代（琉球大学）

メールマガジン担当委員

古村由美子（長崎大学）  
雪丸尚美（北九州市立大学）

支部紀要編集委員

中野秀子（九州女子大学）  
大藪修一（九州産業大学）  
田上優子（福岡女子大学）  
森礼子（福岡県立大学）  
米岡ジュリ（熊本学園大学）

「支部だより」編集委員

植田正暢（北九州市立大学）  
松崎 徹（筑紫女学園大学）  
事務局

## 事務局からのお知らせ

### 【新会員（2015年10月26日現在）】

<正会員>

Lake J.（福岡女学院大学）

Holster Trevor（福岡大学）

羽生麻紀子（コロンビア大学ティーチャー  
ーズカレッジ）

大下晴美（大分大学）

大場明日香（福岡女学院大学）

山崎祐一（長崎県立大学）

### 【2015年度ワークショップ】

2015年度ワークショップが以下の日程  
で開催されます。

日時：2015年12月5日（土）15:30～17:00

会場：西南学院大学 言語教育センター  
参加登録：

[http://www.j-let-ko.org/htdocs/?page\\_id=18](http://www.j-let-ko.org/htdocs/?page_id=18)

（定員になり次第、締め切らせていただきます。）

題目：モバイル機器の録音・撮影機能と  
Moodle を連携させたアウトプット活  
動の記録と評価

講師：学習院大学教授 熊井信弘先生

### 【第45回支部研究大会】

第45回支部大会が以下の日程で開催  
されます。

開催日：2016年6月4日（土）

場所：北九州市立大学ひびきのキャン  
パス（北九州市若松区ひびきの1-1）

大会テーマ：中学・高校・大学における  
リーディング活動—主体的な学びを  
目指して—

資料代：非会員 1,000円、非会員（学  
生）500円、会員 無料

### 【第56回全国研究大会】

第56回LET全国大会が以下の日程で開  
催されます。

日時：2016年8月7日（日）から9日（火）

会場：早稲田大学

### 【会費納入のお願い】

2015年度の会費振り込みのお願いが、  
登録住所宛に送付されていると思います。  
まだお振り込みいただいていない会員  
の方は、お早めにお振り込みいただきま  
すようお願いいたします（個人会員・団  
体会員は6,000円、学生会員は3,000  
円）。未納の状態が続く場合には支部  
からの発送物を停止させていただく場  
合がございます。支部の円滑な運営の  
為にもご協力をお願いいたします。な  
お住所・所属等に変更が生じた場合  
には、学会本部のHPより変更し  
ていただきますようお願い申し上げます。

### 【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

### 【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-1

北九州市立大学 長 加奈子 研究室内